

研究主題 「よりよい生活づくりに参画する意欲を高める学級活動の在り方 —集団活動を通して自己を生かす能力をはぐくむ指導の工夫—

東京都教職員センター研修部教育開発課
練馬区立石神井西中学校 教諭 荒木 忍

I 研究のねらい

核家族化や家庭・地域の連帯感、人間関係が希薄化している現在、社会における多様な集団に主体的に参加する人間が求められている。社会における多様な集団に主体的に参加する態度を身に付けるためには、学校外における体験活動を行うなど、社会の一員として生きる姿や果たすべき役割への気付きを促すことが大切である。中学校においても、職場体験をはじめ様々な体験活動が実施されているが、生徒の「集団に参画する意欲」を向上させる指導にはまだ工夫の余地がある。

新中学校学習指導要領には特別活動の目標として「集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす」という社会や集団に参画する態度を育てる必要性が述べられている。そこで本研究では学級活動に視点をあて、特別活動の特質を踏まえ、集団活動を通して自己を生かす能力をはぐくむ指導方法を開発する。

II 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 中学校特別活動 学級活動における課題

① 文献研究

「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」(平成14年7月 中央教育審議会)

社会に役立つ活動に主体的に取り組む、新たな「公共」を支える人間を育てるには、学校内外における奉仕体験・体験活動を推進する等、多様な体験活動の機会を充実し、豊かな人間性や社会性を培っていくことが必要である。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(平成20年1月 中央教育審議会)

自分に自信がもてず、自らの将来や人間関係に不安を抱えているといった子供の現状から、体験活動の充実を図ることにより、他者や社会とのかかわりの中で社会性を培う必要性がある。

「児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」(平成15～19年 東京都教育委員会)

「進んでボランティアに参加している」という設問に「はい」と答えた小学5年生の割合より中学2年生の方が低い。「将来人の役に立つ仕事がしたいですか」という設問においても同様、中学生の方が「はい」と答えた割合は低い。

これらのことから、地域社会や所属する集団の向上のために主体的に取り組もうとする態度が求められているにもかかわらず、学年進行にともないその意欲が低下している現状が見られ、よりよい生活づくりのために自己を生かす能力をはぐくむ必要があることが分かる。

② 先行研究

社会参画に関する先行研究や実践事例の分析から明らかにした、学級活動における社会性の育成上の問題点を基に、本研究において「自己を生かす能力」をはぐくむために必要な態度を次のように整理した。

- ・ 自己の個性や能力・適性を伸ばそうとする態度…… 社会で必要な態度を知り、今所属する集団で自分の役割を果たしながら自分の個性や能力・適性を伸ばそうとする態度
- ・ 人とかかわろうとする態度…… 話し合い活動やロールプレイングを通して、他とかわるよさを知り、積極的に人とかかわろうとする態度

「よりよい生活づくりに参画する意欲を高める学級活動の在り方
— 集団活動を通して自己を生かす能力をはぐくむ指導の工夫 —」

(2) 調査研究

都内公立中学校においてグループインタビューの手法を用いて中学2年生（58人）、3年生（12人）、教員（17人）を対象に社会参画への不安要素や社会参画に必要な指導を把握する調査を行い、表1のような結果を得た。

表1 社会参画への不安要素や社会参画に必要な指導への回答例

① 中学生が進んでボランティアなどの活動に参加しない理由は	生徒	・ 自分にできるか分からないから
	教員	・ 知らない人とうまくやっていると心配だから
	教員	・ 人とかかわる体験が不足しているから
② 社会に参画するには何が（きっかけや指導など）必要か	生徒	・ 自分にできるものを教えて欲しい
	生徒	・ 知り合いに誘われれば参加したい
	教員	・ 校内の共通認識を図った計画的な指導が必要だろう

教員が意図的に社会において必要な態度を見据えた学級活動に取り組みさせることで、生徒は学級のよりよい生活づくりのために必要な態度に気付くことができる。教員がよりよい生活づくりに必要な態度を見据えた系統的な学級活動を計画し実践することで、生徒の不安要素が解消し、学級だけでなく、学校内の多様な集団や社会に参画する意欲につながっていくと考えた。

【研究仮説】

学級活動において、職場体験や地域の多様な集団での経験を生かした活動の展開を工夫することにより、自己の個性や能力・適性を伸ばそうとする態度と人とかかわろうとする態度を育てることができるであろう。

2 開発研究及び実践研究

(1) 各教科等の関連を踏まえた3年間の学級活動指導計画モデルの開発

よりよい生活づくりに参画する意欲を高める指導を学級活動単独で行うのではなく、各教科等の学習内容や学校行事との関連を踏まえた3年間の指導計画モデルを作成した。(表2) 学級活動における全題材において、そのねらいや活動内容が関連または共通するものを3年間を見通した系統性や発展性、教科指導等を踏まえて配列した。それによって、育てたい二つの態度に着目した指導をより効果的に行うことができる。

表2 3年間の学級活動指導計画モデル（一部抜粋）

		第一学年(35時間)				
月	期	行事	指導要領	題材	各教科等の指導内容	
4	前期	始業式	(1)イ	年度当初の組織作り、目標決め	・新しい環境への適応を図ろう	道徳 1(1)基本的な生活習慣 4(4)集団生活の向上
			(1)イ	年度当初の組織作り、目標決め	・集団の目標を考える	国語 A話すこと・聞くこと(1)ア、エ
			(1)イ	年度当初の組織作り、目標決め	・よりよい学級を目指して自分にできることを考えよう	
			(1)イ	班編成と班の仕事、役割分担		
			(2)ウ	集団生活のマナーとルール	・リーダーの役割を知ろう	体育 H体育理論
			(3)イ	図書館の利用について	・学級の一員としての自覚とは何だろう	
5	前期	運動会	(1)ア	運動会に向けて	・自己理解と他者理解「みんなちがってみんないい」	道徳2(3)友情、信頼
		生徒総会	(1)ア	生徒総会議案書討議		道徳4(7)よりよい校風の樹立
		前期中間	(3)ア	学ぶことの意義、定期試験に向けた取り組み		

(2) 「自己の個性や能力・適性を伸ばそうとする態度」と「人とかかわろうとする態度」をはぐくむための指導方法の工夫

「題材の工夫」と「話し合い活動の工夫」の2点を重視し、前者では「学校内外の体験活動の活用」を、後者では「各教科等や小学校での話し合いの経験を生かした活動」を行うことにした。

① 題材の工夫

体験学習で経験したことや学級外の活動で学習したことを学級活動において十分に生かすことが重要であると考えた。そこで、総合的な学習の時間で行う内容や学校外の多様な集団にかかわる活動の経験から、社会参画に必要な態度に視点をあて、(1)で作成した指導計画モ

デルを基に題材を設定し、検証した。(表3)

表3 集団活動を通して自己を生かす能力をはぐくむ指導展開

	新学習指導要領	題材	生徒の活動		指導の工夫
			自己の個性や能力・適性を伸ばそうとする態度をはぐくむ活動	人とかかわろうとする態度をはぐくむ活動	
第1次	学級活動(2)ウ 社会の一員としての自覚と責任	学級目標の見直し ＜活動内容＞ 職場体験のまとめを生かして学級目標を見直す。	職場体験のまとめ		<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間に行った職場体験まとめアンケートを活用した展開を行う。 ・話合いの方法を複数提示する。
		職場体験を通して知った「自己を生かす能力」のうち学級で身に付けることができるものを話し合い、学級目標を見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・班長会が話し合い活動の選択をする。 ↓ ・様々な意見が認められる話し合い活動を体験する。 		
第2次	学級活動(1)イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理	学級の組織決め ＜活動内容＞ 第1次で見直した学級目標の達成を目指した組織づくりを行う。	社会に必要な態度を伸ばすことを目標とした学級内の委員会、係等の組織づくりを行う。	アンケートによる係活動等の実態調査	
				<ul style="list-style-type: none"> ・役割を果たす上で、どのように人とかわれば、社会に出たときに必要な態度が身に付くかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理想とする学級像を明確にした学級組織づくりを行う。
第3次	学級活動(1)ウ 学校における多様な集団の生活の向上	多様な集団と活動の在り方 ＜活動内容＞ 第1、2次で学習した内容を基に、学校外の多様な集団で活動する成員の悩みや課題を取り上げて解決方法を考える。	学校外の集団での経験		<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの方法を複数提示する。 ・学級外での経験を活用した展開を行う。 ・地域・保護者による授業支援を行う。
		地域で社会活動に参加している学級成員の活動の様子から、学校外の多様な集団の活動とそこで求められる態度を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの結果を冊子にまとめ、「集団生活で困ったときの本」として図書室に保管する。 		
			生徒会活動への発展		地域とのかかわり

② 話し合いの活動の工夫

ブレインストーミングや小集団討議、パネルディスカッションなど、複数の話し合いの方法を班長会に提示し、学級の実態に合わせたものを選択できるようにした。話し合いの方法は、国語等の教科で学習する方法を参考にした。班長会では小学校での話し合い活動の経験を振り返り、話し合い活動の形態、規模(人数)などを決定した。このように教科で学習した内容の活用や話し合いの形態の工夫を行うことで、意見や考えを出しやすい場面づくりができ、意見交換や討論が活発に行われた。

Ⅲ 研究の結果と考察

1 指導計画の有効性

検証授業第2次では、学級組織決めに関わる自分なりの課題や目標をもって積極的に立候補しようとする姿が見られた。検証授業対象の学級担任から「前期の組織づくりよりも立候補者が多く、短時間で決めることができた。」と聞くことができた。また「誰かがやるから私もやる、という理由で仕事をやるのではなく、自分でやろうと思った活動は一緒になった人と協力して全力で取り組めるようになりたい。」という感想を述べた生徒もいた。このように、社会に必要な態度を学び合う題材を取り上げたことは、生徒が題材を自分自身のこととして実感でき、よりよい集団づくりのために自己を生かそうとする態度をはぐくむのに有効であった。

2 生徒の意識・行動の変容

3時間の検証授業を通して、総合的な学習の時間に行った職場体験で学習したことを生かし

て主体的に意見を述べるなど話し合い活動に取り組み、「集団活動を通して自己を生かすこと」についての学習の深化を図ることができた。検証授業前後に実施した評価項目（図1）では、授業によって各項目の理解が深まったことが分かる。

全員が参加するロールプレイングや小集団で行うブレインストーミングなど多様な意見を受け入れる話し合い活動を行ったり、地域の活動に参加している大人に授業支援者として協力してもらったりすることで、自分以外の考えに触

れる機会を得、異なる意見を聞こうとする姿勢が育った。

特に地域で活動する生徒の悩みや不安を取り上げた検証授業第3次では、異なる意見を聞くことの大切さに触れ、人とかかわりについて今までの態度を振り返り、今後の生活に生かそうとする発言が出された。（表5）

3 題材・指導方法の有効性

検証授業後のアンケート結果から、学校外の活動に参加する上での不安要素が取り除かれたことが読み取れる。

（図2）「人に会うときの態度が分かり、自信がついた。」「社会に必要な態度が分かったので早く社会に出たい。」と意欲を見せた生徒が多く、各教科等の学習内容や学校行事等と関連した題材は有効であった。

学級目標の見直しや組織づくりの題材を扱うことで、生徒が所属する集団で何ができるかを考え、自己を生かす能力を伸長することができた。その手段としての話し合い活動の場面において、話し合いの良さに気付かせ、集団活動の効果を十分に生かした。また班長会等、生徒主体の学級活動を実施することで、生徒の自主的、実践的な活動を展開できた。本活動を通して、学級外の集団で自己を生かすことへの自信を深め、身近な集団への参画する意欲が向上した。

IV 今後の課題

生徒の自主的、実践的な学級活動を展開するには定期的な班長会等を開くことが理想であるが、実施時間等の工夫は多くの学級担任が課題としている。全教員の共通理解と協力体制の基に、生徒の自主的、実践的な活動を促すための時間を設定することが重要である。

特別活動の全体計画を作成することが新学習指導要領において明確にされている。各教科等の関連を図った全体計画を、特に体験活動と関連を図った計画を再構築し、今後授業実践を通して検討していきたい。

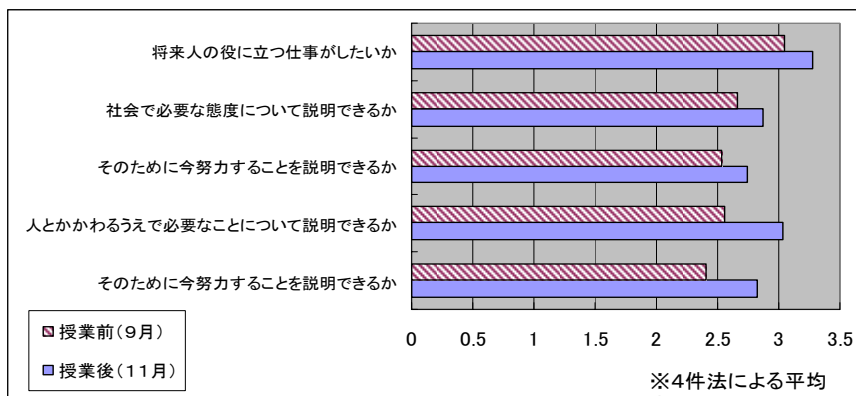


図1 集団活動を通して自己を生かすことについての理解度の比較
 ※4 できる(したい) 3 まあできる(まあしたい) 2 あまりしたくない(あまりできない) 1 したくない(できない)

表4 個性や能力、適性を伸ばそうとする態度の記述例

- ・ 今所属している係や委員会の仕事をきちんとやるのが、社会に出たときに役に立つことが分かった。
- ・ 普段の態度を見直したい。

表5 人とかかわろうとする態度の記述例

- ・ もっとたくさんの人と相談し合える関係になりたいと思った。
- ・ 悩んだりしたときのために(周囲と)信頼関係を築いておく必要がある。

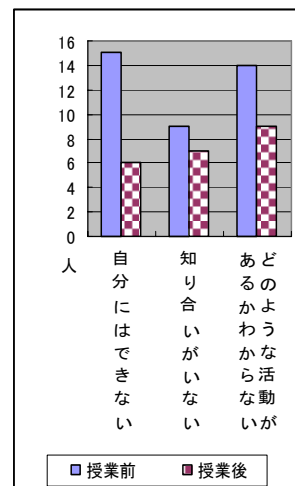


図2 学校外の集団に参加することへの不安を感じている生徒数の比較

研究主題 「よりよい生活づくりに参画する意欲を高める学級活動の在り方 —集団活動を通して自己を生かす能力をはぐくむ指導の工夫—

東京都教職員センター研修部教育開発課
練馬区立石神井西中学校 教諭 荒木 忍

【補助資料1】新学習指導要領に述べられる社会参画にかかわる内容

中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成20年7月）に示される特別活動の特質の概要

<p>集団活動 特別活動で言う「集団活動」には学級を単位とする集団のほか、学級や学年を超えた集団による活動が含まれる。これらの活動を通して、好ましい人間関係を形成するために必要な能力や態度、所属する集団の充実向上に努めようとする態度、社会の一員としての自覚と責任ある態度、人間としての生き方を探求し自己を生かす能力や態度などが養われることを目指す。</p> <p>実践的な活動 実際の生活体験や体験活動による学習を通して、全人的な人間形成を図る。教科で学んだことを総合化し、生活や行動に生かすという自主的、実践的な態度を育てることを目指す。</p>
--

新中学校学習指導要領に示される社会参画に関する主な内容

<p>特別活動 〔学級活動〕1 目標 学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度や健全な生活態度を育てる。</p> <p>〔生徒会活動〕1 目標 生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てる。</p>	<p>家庭分野 A家族・家庭と子どもの成長（2） ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。</p>
<p>国語 〔第1学年〕2 内容 A話すこと・聞くこと ア 日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。 エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。</p> <p>〔第2学年〕2 内容 A話すこと・聞くこと ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で整理すること。</p> <p>〔第3学年〕2 内容 A話すこと・聞くこと ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする事。 エ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。</p>	<p>保健体育 H 体育理論（2）イ 運動やスポーツは、ルールやマナーについて合意したり適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。</p>
<p>社会 〔地理的分野〕2 内容（2）日本の様々な地域 エ 身近な地域の調査 身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見出し、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養うとともに、市町村規模の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。</p> <p>〔公民的分野〕2 内容（4）私たちと国際社会の諸課題 イ 持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を追求させ、自分の考えをまとめさせる。</p>	<p>道徳 1 主として自分自身に関する事。 (1)望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。 (5)自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。</p> <p>2 主として他の人とのかかわりに関すること。 (1)礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること (2)公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。 (4)自己が所属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団の向上に努める。 (5)勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。 (7)学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。 (8)地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。 (9)日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。</p>

【補助資料2】

児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書「学習に関する意識調査」（東京都教育委員会）より

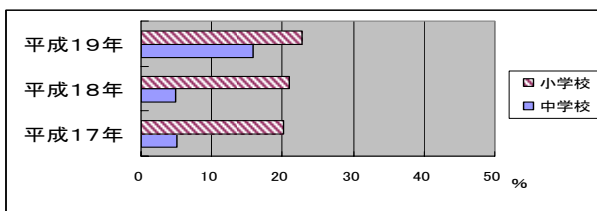


図1 進んでボランティアをしていると答えた人数の比較

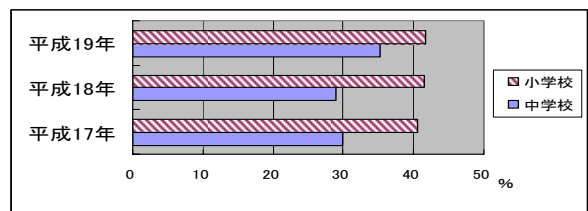


図2 将来人の役に立つ仕事がしたいと答えた人数の比較

【補助資料6】第3次で作成した「集団生活で困ったとき
の手引書」(一部抜粋)

【補助資料5】 班長会で示す話し合いの方法例

中学校国語科の教科書で「話し合いの仕方(話す聞く)」として紹介されている方法から
*ブレインストーミング、*カード発想法、スピーチ、*◆グループディスカッション(バズセッション)、ディベート、ショウ・アンド・テル、ポスターセッション、プレゼンテーション、◆パネルディスカッション、パブリックスピーキング等
その他
◆ロールプレイング、シンポジウム等

*は検証授業第1次で班長に提示した話し合いの方法

◆は検証授業第3次で班長に提示した話し合いの方法

【補助資料7】

授業アンケート 生徒の自由記述欄より

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 技能・表現	エ 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 授業を受けて<u>自信がついた。</u> どんな態度を身に付けたらいいのかわかったので<u>早く社会に出てみたい</u>と思った。 みんなの意見を聞けたので<u>自信をもてるようになった。</u> 自分の係の中で社会に必要な態度などを<u>もって見つけてみたい</u>と思った。 <u>自分に足りないものを考えてみよう</u>と思った。 社会に出たときの態度やそれを見つけるために<u>学校で何を学ばなければいけないのか、分かった。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事をするときは特別な態度でないと<u>いけない</u>と思っていたけど、<u>普段の生活をしっかりしていくことが大切だ</u>と思った。 今まで学級目標について考えたことがなかったけど、授業を受けてみて<u>達成できているものとできていないものに分かれていて、すごく考えさせられました。</u> 学級目標を見直したら<u>自分を変えるところがいっぱいあったので直していきたい。</u> 相談し合える仲間をつくるために<u>積極的になろう</u>と思った。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>あいさつの仕方が変わった。</u><u>しっかりと目を見てあいさつできるようになった。</u> 人に会ったときに<u>積極的</u>に<u>あいさつ</u>できるようになったと思う。 授業前は「必要な態度」についてあまり分らなかったけど、<u>みんなの意見を聞いたり、考えたりして分かった</u>ので、話し合うことが大切だと思った。 <u>普段から自分の役割をきちんと果たしていれば、相手に言いにくいことでも自信をもって言えるようになる</u>と思った。 	<ul style="list-style-type: none"> きちんとした態度は大人になってからでいいと思っていたけど、大人は<u>子どもの時にしていた態度の表れ</u>だから、<u>今からしっかりと態度</u>をしていかな<u>いといけない</u>、と思った。 <u>人に接する態度などで生活に生かせることが分かった。</u>例えばあいさつや言葉遣いなどを使ってみようと思った。 簡単な仕事なのかそうでないのかで係を決めるのではなく、<u>自分が皆のために何がしたいのかで決めるとよい</u>と思った。